

及び郷土出身作家・画家の作品を中心に収集した。

研究資料については、児童図書研究のための参考図書、児童文学や絵本についての作家論・作品論を中心に収集した。また、子供向けの新聞や雑誌、研究用の雑誌も昨年引き続き収集した。

### (5) 逐次刊行物の収集と整備

利用者の多様な要望に対応すべく、各分野の定評ある雑誌を収集し、資料の充実を図った。

新聞については、新たに日本農業新聞等を増やし地元紙、中央紙の収集保存に努めた。特に今年度は、福島新聞の大正時代と地元紙のマイクロフィルム化により、汚・破損防止に努めると共に、郷土関係記事のクリッピング等によって利用者の利便を図った。

[表1] 平成12年度逐次刊行物受入整理状況  
(単位：種)

区 分	購 入	寄 贈	計
新 聞	27	64	91
雑 誌	211	883	1,094
官 報 等	3	0	3
計	241	947	1,188

[表2] 平成12年度資料の受入状況  
(単位：冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	6,708	3,198	9,906
郷土・行政資料	932	4,130	5,062
児 童 図 書	1,486	732	2,218
児童図書研究室資料	653	87	740
館 外 用 図 書	3,927	2,218	6,145
計	13,706	10,365	24,071

## 第3節 館内奉仕

直接来館あるいは電話や文書による県民の資料・情報要求が多く寄せられている。

内容的にも、ここ数年来の多様化、専門化の傾向はますます顕著になっているので、資料の充実とともに利用環境の整備にも努力した。

### 1 調査相談

本年度も資料・情報や情報源の調査相談・依頼が多く寄せられた。これらの要求に可能な限り応えるために、参考資料の整備はもとより各専門機関との連携、レファレンスツールの充実、担当職員の資料運用力の向上などサービス体制の強化に努めた。

その結果は総件数17,335件であった。

[表3] 記録された参考質問の分析

(単位：件)

区 分	口頭	電話	文書	FAX	Eメール (含掲示板)	小 計	
一 般	人 文	2,520	1,088	42	2,556	20	6,226
	社 会	2,786	737	9	311	0	3,843
	自 然	1,061	221	5	183	0	1,470
	小 計	6,367	2,046	56	3,050	20	11,539
郷 土	1,248	1,119	103	149		25	2,644
逐次刊行物	1,158	567	24	63		11	1,823
小 計	8,773	3,732	183	3,262		56	16,006
児 童	1,201	95	1	27		5	1,329
合 計	9,974	3,827	184	3,289		61	17,335

## 2 館内奉仕

コンピュータ化により約10万5千冊の開架図書をはじめ全蔵書が容易に検索でき、そして自由で快適な環境のもとに閲覧できるよう、案内・表示の工夫や的確な利用者対応に留意した。

また、利用者の図書館要求を把握し、できるだけそれらを運営に反映させるため努力した。

## 3 館外個人貸出

一度の来館につき、1人5冊以内で15日間の館外貸出を行い、非所蔵資料は「予約制度」により提供し、遠隔地の利用者には地元の図書館に返却可能な制度があり、いつでも、どこでも、誰にでも、求める資料が確実に入手でき、しかも利用しやすい条件づくりに努めた。

館外貸出利用者数は、54,793人であった。

[表4] 館外個人貸出利用冊数

分 類	冊数	構成比(%)	分 類	冊数	構成比(%)
総 記	3,519	2.3	語 学	1,575	1.0
哲学宗教	4,482	3.0	文 学	19,654	13.0
歴史地理	8,579	5.7	郷土資料	5,585	3.7
社会科学	15,282	10.1	雑 誌	5,471	3.6
自然科学	9,154	6.1	小 計	96,755	64.1
工学工業	9,595	6.4	児 童	54,234	35.9
産 業	5,072	3.4	合 計	150,989	100.0
芸 術	8,787	5.8			

[表5] 入館者数・登録者数

開館日数	入 館 者 数	1 日 平 均	登 録 者 数
276	244,800	887	8,470